



生物多様性おきなわ戦略



平成 25 年 3 月



沖 縄 県

目次

はじめに	1
第1章 生物多様性おきなわ戦略策定の背景	4
第1節 沖縄21世紀ビジョン	4
第2節 生物多様性の保全に関する社会的流れ	6
第3節 生物多様性地域戦略の策定	8
第2章 生物多様性について	10
第1節 生物多様性とは	10
第2節 生態系サービスについて	12
第3節 沖縄における生態系サービス	13
第3章 現状と課題	24
第1節 世界の生物多様性の現状	24
第2節 日本の生物多様性の現状	26
第3節 沖縄県の生物多様性について	28
1 県全体の現状	28
2 県全体の課題	38
3 地域ごとの現状と課題	42
第4章 地域戦略	68
第1節 基本姿勢	68
1 地域戦略策定の主旨	68
2 地域戦略の位置付け	68
3 地域戦略の対象地域	70
4 戦略の見直し	70
第2節 グランドデザイン	71
1 目指すべき将来像	71
2 目指すべき地域の将来像	72
第3節 目標	77
1 中長期目標（2030年）	77
2 短期目標（2022年（10年））	77
第4節 基本的視点	78
1 科学的認識と予防的順応的態度	78
2 島・圏域ごとの特性と、人と自然のつながりや生態系のつながりの重視	78
3 社会経済的な仕組みの考慮	78
4 県民の積極的な参加による戦略の実効性の確保	78
5 地球温暖化対策実行計画との連携	78
第5節 基本施策	79
1 生物多様性の損失を止める	79
2 生物多様性を保全・維持し、回復する	79
3 自然からの恵みを賢明に利用する	79
4 生物多様性に対する認識を向上させる	79
5 生物多様性の保全に関する取組に県民参加を促す	79
第5章 行動計画	82
第1節 施策ごとの取組	82
1 生物多様性の損失を止めるための取組	82
2 生物多様性を保全・維持し、回復するための取組	87
3 自然からの恵みを賢明に利用するための取組	97
4 生物多様性に対する認識の向上を図るための取組	101
5 生物多様性の保全に関する取組に県民の参加を促すための取組	107
第2節 重点施策及び取組	113
1 県全域の重点施策	113
2 圏域別の重点施策	115

第6章 推進体制	122
第1節 主体ごとの役割	122
1 県の役割	122
2 県民の役割	122
3 民間企業などの役割	123
4 民間団体の役割	123
5 大学など研究機関の役割	123
第2節 進行管理	124

巻末資料	125
1 用語解説	126
2 参考文献	138
3 参考文献（コラム）	141

コラム

1. えーっ！？ グルクンって8種類もいるのー！	11
2. アダン是世界商品だった	14
3. 防潮・防風林	17
4. 青い海と白い砂浜はサンゴ礁の恵み	18
5. 海について「地名」？	21
6. しまぶた！ しまいぬ！ しまどり！ しまうま？	22
7. 島が種を増やしている	31
8. 自然河川と都市河川の生物多様性	34
9. 洞窟内の食物連鎖	37
10. いつまでも残していきたい身近な虫 —ゲンゴロウ—	41
11. リュウキュウアユ —人間の開発により絶滅し、人間の努力で復活した魚—	46
12. ダムに消えたオリヅルスミレ	48
13. 干潟の歩く宝石 —シオマネキー—	52
14. 米軍基地から生き物たちの中継基地へ	54
15. 宮古島の方言に見る島のくらしと自然のかかわり	59
16. あんぱるぬみだが—まゆんた	65
17. ヤエヤマヤシの2つの謎	67
18. 南の島のそっくりさん！？ —琉球諸島と小笠原諸島—	80
19. 沖縄版「森は海の恋人」活動	92
20. 沖縄県こども環境会議	102
21. みんなのともだちヤンバルクイナ	106
22. 喜如嘉タープク —喜如嘉小学校の取組—	110
23. キバナノヒメユリ保全活動	112

はじめに

私たちが住む沖縄県は、日本列島の南西部に位置し、東西約 1,000km、南北約 400km に広がる広大な海域に点在する大小 160 の島々からなる島嶼県です。これらの島々は、北に沖縄島を主島とする沖縄諸島、南に宮古諸島と八重山諸島からなる先島諸島、そして、東西に位置する大東諸島と尖閣諸島で構成されています。また、琉球諸島の周辺を流れる黒潮の影響により、年間を通して温暖な亜熱帯海洋性気候となっています。

沖縄県を構成する島々を含む琉球列島は、かつて大陸の一部でしたが、約 200 万年からの地殻変動に伴い大陸から離れ、徐々に現在の島へと移り変わっていきました。大陸から渡ってきた動物たちは、海によって隔たれたことで島独自の環境へ適応し、あるいは大陸での同種あるいは近縁種の絶滅により固有の種へと進化していったといわれています。

例えば、沖縄諸島ではオキナワトゲネズミやリュウキュウヤマガメ、オキナワイシカワガエルなど、奄美諸島を除いては近隣地域に近縁種が見られない固有種が多いことが知られていますが、このことは、琉球列島の中央に位置する沖縄諸島と奄美諸島がとりわけ早く大陸から隔離されたことが理由のひとつだと考えられています。

さらに、島の地形や地質が多様であったことや、島ごとに異なる生物相が関わり合い共生していく中で独特の生態系が生じてきたことも、豊かな生物多様性が保たれている理由だと考えられています。

このように、沖縄の豊かな生物多様性は何十万年、何百万年という長い歴史の中で隔離・進化した生物相互のつながりの上に成り立っています。

沖縄の先人達は、自然から受ける恵みにより自然の脅威から守られ、生活し、独自の文化を築いてきました。そして現代の沖縄においても、生物多様性が織りなす豊かな自然環境は私たち県民のよりどころであるとともに、国内外から多くの人達を魅了するかけがえのない財産となっています。私たちもまた、生物相互のつながりの中にあり、そのつながりの一員として多くの恵みを受けているのです。

第二次世界大戦における沖縄戦で、沖縄は多くのものを失いました。生物多様性も、失われたものの一つでしょう。また、1972 年に沖縄が日本復帰して 40 年が経過し、沖縄の社会・経済は大きく変化しました。道路や港湾、空港などの社会資本の整備が急速に進み社会生活の利便性が向上し経済活動は活発になりました。ダム整備が進んだことで断水に悩まされることも少なくなり、河川の改修や護岸整備により洪水や高波の心配も少なくなりました。

しかし、急速な開発により多くの自然環境が失われ、沿岸海域の生態系は海岸線の埋立や陸域からの土砂流入などにより広範囲に影響を受けています。また人為的に持ち込まれた外来種が在来希少種の生存を脅かしているなど、複数の要因により沖縄の在来種の多くは生存の危機に瀕しており、沖縄の生物多様性が失われていくことが危惧されています。

また、米軍基地からの排水や油流出事故などによる水質汚濁、米軍跡地からの有害物質の検出、新たな基地建設計画などによる貴重な動植物の生息・生育環境への影響などが懸念されています。

さらに、御嶽（うたき）に対する信仰やサンゴ礁のイノー（礁池）の利用など、沖縄古来の伝統的なルールに基づいた、節度を踏まえた自然との接し方が薄れていったことも、沖縄の生物多様性が失われつつあることに関係しているのかもしれない。

沖縄県は、望ましい沖縄の将来像を描いた基本構想として「沖縄 21 世紀ビジョン」を 2010 年に策定しました。この構想策定に先立ち行われた県民アンケート結果では、守るべき「沖縄の良さ」として「豊かな自然環境」を選んだ回答者が 9 割を占めるとともに、望ましい沖縄の将来像についても「自然環境」が最も重視されていることが分かりました。このことから、大多数の県民が、将来も「沖縄の豊かな自然環境」の中で暮らしていくことを願い、失われていく沖縄の自然環境を憂慮していることをうかがい知ることができます。

一方で、沖縄県は、人口が増加し、経済が発展していく地域と予想されています。1970 年に 95 万人であった人口は 2011 年には 140 万人を超え、日本の首都圏に次いで人口増加率の高い県となっています。また、1972 年に 44 万人であった観光客数は 2008 年には 600 万人を超え、観光産業は沖縄のリーディング産業として今後も発展していくことが期待されています。

このような中、豊かな自然環境を育みながら持続的に発展できる沖縄の実現に向け、沖縄の豊かな自然環境の基本的な要素である沖縄の生物多様性を保全し、持続可能な方法で利用していくことが重要なテーマとなっています。私たちが住む沖縄が持つ生物多様性の豊かさと、自然からの恵みを見つめ直すとともに、この恵みを将来にわたって享受できるよう考え、行動していかなければなりません。

例えば、「開発と保全」は、対立するもの、相容れないものとして捉えられ、開発か保全かという二者択一の対立軸の上で議論されてきました。これからも直面せざるを得ないこの難問に対し、新しい合意形成の仕組みを創造していくことはできないでしょうか。

自然環境が多く残されている地域は、一方で過疎化の課題に直面しています。このような自然豊かな地域の生物多様性を保全しつつ、それを地域振興へと繋げ、定住する人々が穏やかに暮らすことができないでしょうか。

生物多様性に対する県民の認知度は必ずしも高くありません。多くの県民が生物多様性に関する知識を深め、教育機関、産業界、行政などの様々な主体とともに協働していくことで、沖縄の豊かな生物多様性を保全し、その中で暮らし、その恵みを得て成長していく未来を築くことができないでしょうか。

私たち沖縄県民はこれまでも豊かな自然環境に生まれ、独自の文化を築いてきました。そして、これからも豊かな自然環境の中で幸せに暮らし、経済的・文化的に発展していくとともに、この島々を、沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島として、次の世代に引き継いでいきたいと願っています。

21 世紀初頭の節目に、その道筋を示す基本的な計画として、ここに沖縄県の生物多様性地域戦略として「生物多様性おきなわ戦略」を策定します。

